

ロールベールクランプの開発について

自給粗飼料の収穫調製では、ロールベールラップサイレージ利用が広く普及しています。ロールベールのハンドリングは専用のベールグラブによる搬送が一般的ですが、ベールグラブを持たない農家も多く、またロールベールの流通拡大に伴い、簡便な搬送手法が求められています。そこで、畜産草地研究所では、建材・石材等の輸送に用いられる懸架式クランプの機構を用いたロールベールクランプを開発したので報告します。

☆技術の概要

1. クレーンや重機に懸架して利用するクランプで、直径 110cm、400kg 程度のロールベールに対応しています（図 1・図 2）。電力・油圧等の動力は必要としません。クランプによるハンドリングでは、ロールベールの変形は少なく、ラップフィルムを傷つけることなく搬送可能でした。
2. ロールベール持ち上げ時は、懸架したクランプを縦置ききのロールベールの上部から差し入れ、接地板がロールベール上面に接するまで降下させてから、ストッパを解除し、クランプを持ち上げます。ロールベールを置く際は、全体を降下させ、ロールベールが接地後、さらにクランプの接地板がロールベール上面に接するまで降下させると、パンタグラフが開口した状態でストッパがロックして、次の作業に移ることができます。

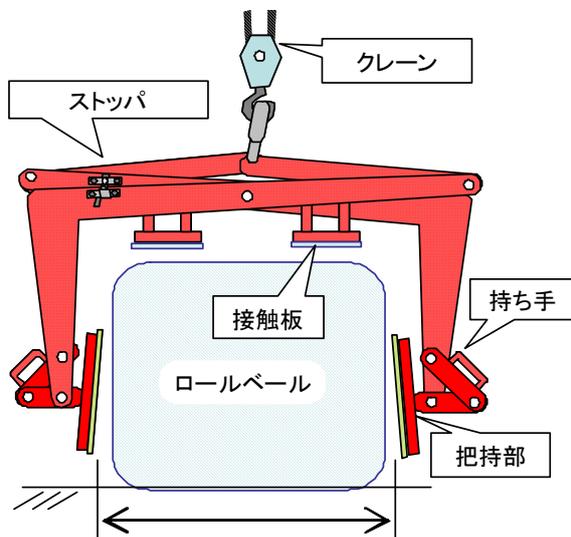


図 1 ロールベール用クランプ



図 2 クレーン付トラックでの利用例

☆活用面での留意点

1. 本手法の搬送作業には、玉掛け技能・クレーン運転の資格が必要です。また作業の際は揚荷能力と安全確保に留意する必要があります。
2. 2009年4月から、岡本製作所(栃木県那須塩原市)において受注生産が可能となっています。また、近隣の鉄工所等でも製作できるよう、図面を提供することも可能です。
3. 詳細については、畜産草地研究所 (TEL:0287-36-0111)にお問い合わせください。

(畜産草地研究所 山地畜産研究チーム 主任研究員 喜田 環樹)